

令和6年度 医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する計画

1 勤務医の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

① 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職等における役割分担

項目	目標達成年次	具体的な取り組み内容
初診時の問診の実施	令和6年度中	外来クラークによる完全問診の実施
	令和7年度	初診患者を対象としたiPadを用いた問診を導入するにあたり、システム上の課題を整理しつつ検証を行う。
静脈採血等の実施	一部実施 令和6年度も継続	外来は、採血室で検査技師が採血する。病棟は、検査技師と看護師に完全に移行する。
入院説明の実施	実施済み 令和6年度も継続	看護師が予約入院及び緊急入院を含めて全診療科の入院患者に入院前支援業務を実施する。
薬の説明や服薬の指導	実施済み 令和6年度も継続	服薬指導を通じて把握した患者情報から積極的な処方提案する。
	実施済み 令和6年度も継続	DI情報の提供、持参薬の管理など継続的な実施。
病診連携・外来縮小	一部実施 令和6年度も継続	他院からの転院紹介患者の相談をMSWが初期対応をする。 病状が安定した患者を積極的に開業医に紹介する。
NDCの活用	一部実施 令和6年度も継続	救急患者の予診・問診、静脈採血及び入院説明を行う。 また、病棟患者の対応などを行う。
医師事務作業補助者の活用	一部実施 令和6年度も継続	医療文書作成率100%を目指す。 外来代行入力業務を整形外科以外に拡充する。

② 医師の勤務体制に係る取組

項目	目標達成年次	具体的な取り組み内容
勤務計画、連続当直を行わない勤務体制の実施	実施済み 令和6年度も継続	休日の日当直が別の医師になるよう勤務表を作成する。 オンコールも連続としない勤務表を作成する。
複数主治医性の実施	一部実施 令和6年度も継続	複数の医師によるチームの編成を推進する。
多様な勤務形態の導入	令和7年度	医師短時間正職員就業規程を整備する。
勤務間インターバル	令和7年度	適正な勤務時間管理を行い、出退勤時間の把握と休憩時間の確保を確実に実施する。
常勤医師の確保	毎年度	大学派遣、紹介会社を通じて利用できる手段を取り入れ、医師確保に努める。

令和6年度 看護職員の負担軽減及び処遇改善計画

報告区分	項目	具体的な取り組み内容	目標達成年次
夜勤の負担軽減	月一人当たりの夜勤 時間数の減少	月一人当たりの夜勤時間数が72時間以内	令和6年度から開始
妊娠・子育て中の看護職員に対する配慮	業務の軽減	夜勤の減 免制度部分休業	実施済み
		24時間毎日預けられる、朝8時前に預けられる	実施済み
	リハビリ室	PT・OTが患者の送迎を実施	実施済み
		看護職員の身体的負担軽減のための研修（腰痛体操等）	実施済み
		喀痰吸引実施に向けた研修の実施・療法師の育成	令和6年度から開始
看護職員と多職種との業務分担	臨床検査室	外来処置室での採血	実施済み
		検査容器（スワブ・培養期限）の管理	令和6年度から開始
	薬剤室	退院患者の服薬指導	実施済み
		入院患者の持参薬確認、持参薬から当院処方への変更	実施済み
	放射線室	配置薬(外来・病棟)の管理（使用期限および在庫管理）	令和6年度から開始
		検査説明（CT・MRI）を実施	令和6年度から開始
	歯科衛生室	患者の送迎	令和6年度から開始
		看護師への口腔ケア指導の実践	令和6年度から開始
入退院支援室	ケア終了後に病棟への搬送	実施済み	
看護補助者と連携	看護補助者の充足	入退院支援看護師と協働し退院支援・調整の実施	実施済み
	看護職員の教育	看護補助者の補充（夜勤のできる職員） 看護補助者活用に関する研修実施	実施済み